

## 中央放射線部

診療放射線技師 上田 拓

### 骨盤部MRI検査

- ・ 当院の骨盤部MRI検査には、膀胱・前立腺・陰囊・子宮・卵巣などがあります。
  - ・ 骨盤部の検査では、**消化管の蠕動運動を抑制**するためにブスコパンという薬を使用することがあります。
- MRI検査は、動きに弱い検査ですので、腸などの消化管が動くと画像もブレてしまいます。

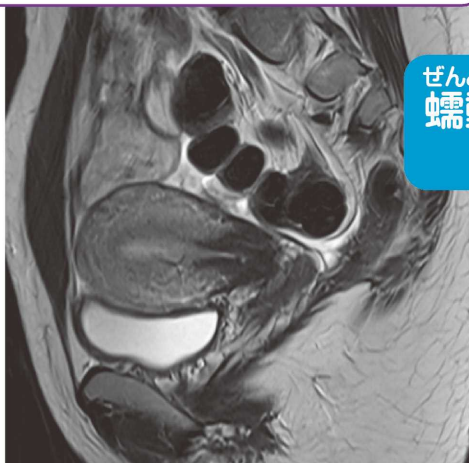
#### ブスコパン禁忌 (使用できない方)

- 出血性大腸炎の方
- 緑内障の方
- 前立腺肥大による排尿障害のある方
- 重篤な心疾患のある方
- 麻痺性イレウスの方
- ブスコパンに対し過敏症の既往歴のある方

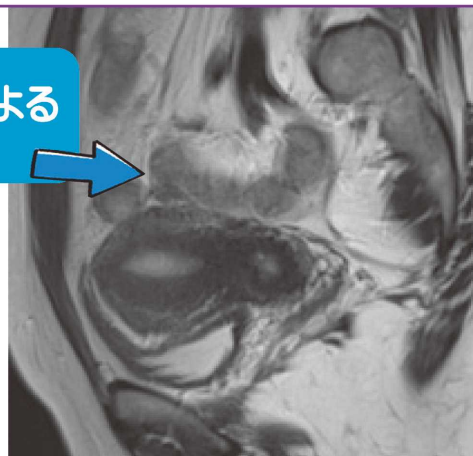
#### 骨盤部MRI (男性)



#### ブスコパンを使用した MRI画像 (女性)



#### ブスコパンを使用していない MRI画像 (女性)



ぜんどう  
蠕動運動による  
ブレあり



# 中央臨床検査部

臨床検査技師 林田 佳保里

## 子宮頸がん検診を受けましょう

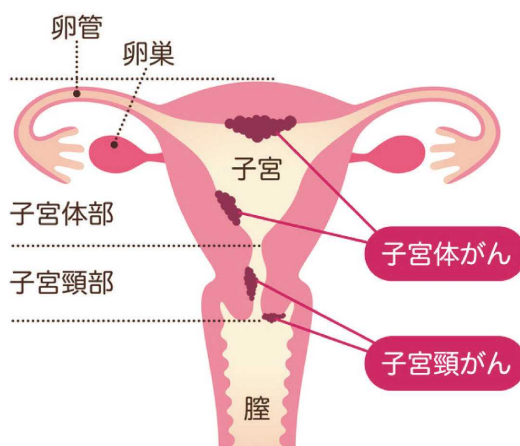
日本では1年間に約11,000人が子宮頸がんと診断され、年間約2,900人、1日当たり約8人が子宮頸がんで亡くなっています。子宮頸がんと診断される人は20歳代後半から増加して、40歳代でピークを迎え、その後横ばいになります。

子宮頸がんの原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV:Human Papilloma Virus)の感染が関連しています。

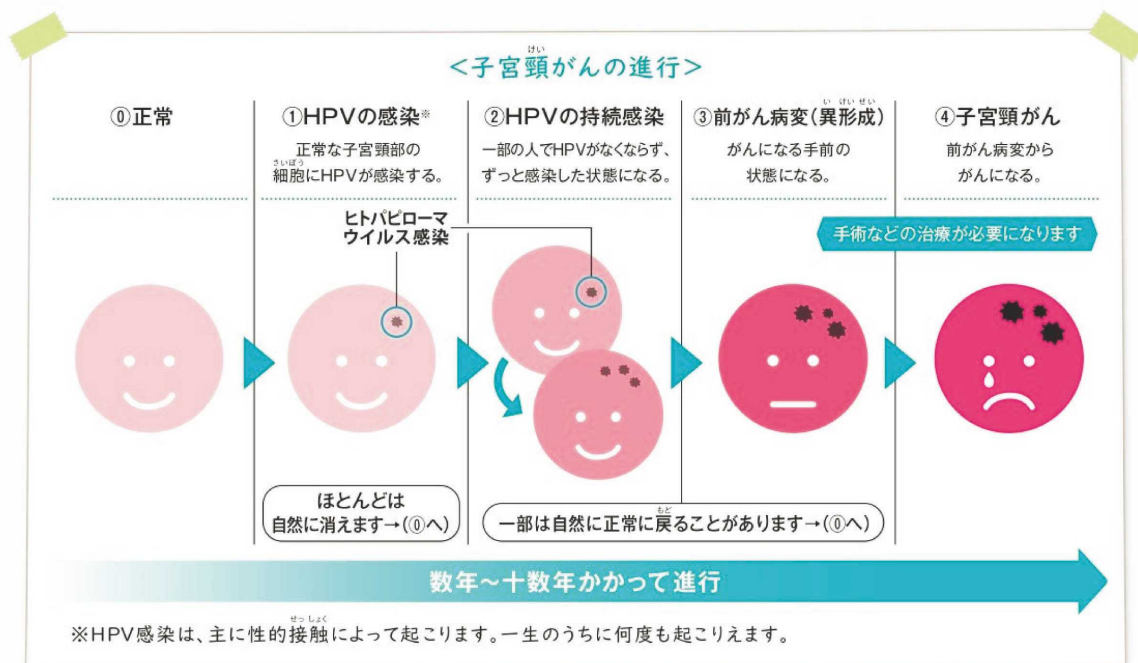
HPVはごくありふれたウイルスで、多くの女性が一生に一度は感染するといわれています。感染してもほとんどは一過性の感染で、2~3年以内に感染が自然消失します。

しかし、ごく一部で感染が持続し、数年から十数年の長い時間をかけて、前がん病変(異形成)を経て、子宮頸がんになります。軽度の前がん病変の80%はがんに進展せず、一部は自然に消えてなくなります。

早期の子宮頸がんでは、自覚症状がほとんどないため、検診で前がん病変の段階で見つけることが重要です。



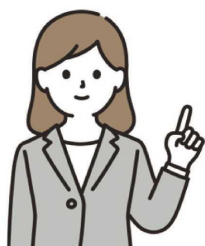
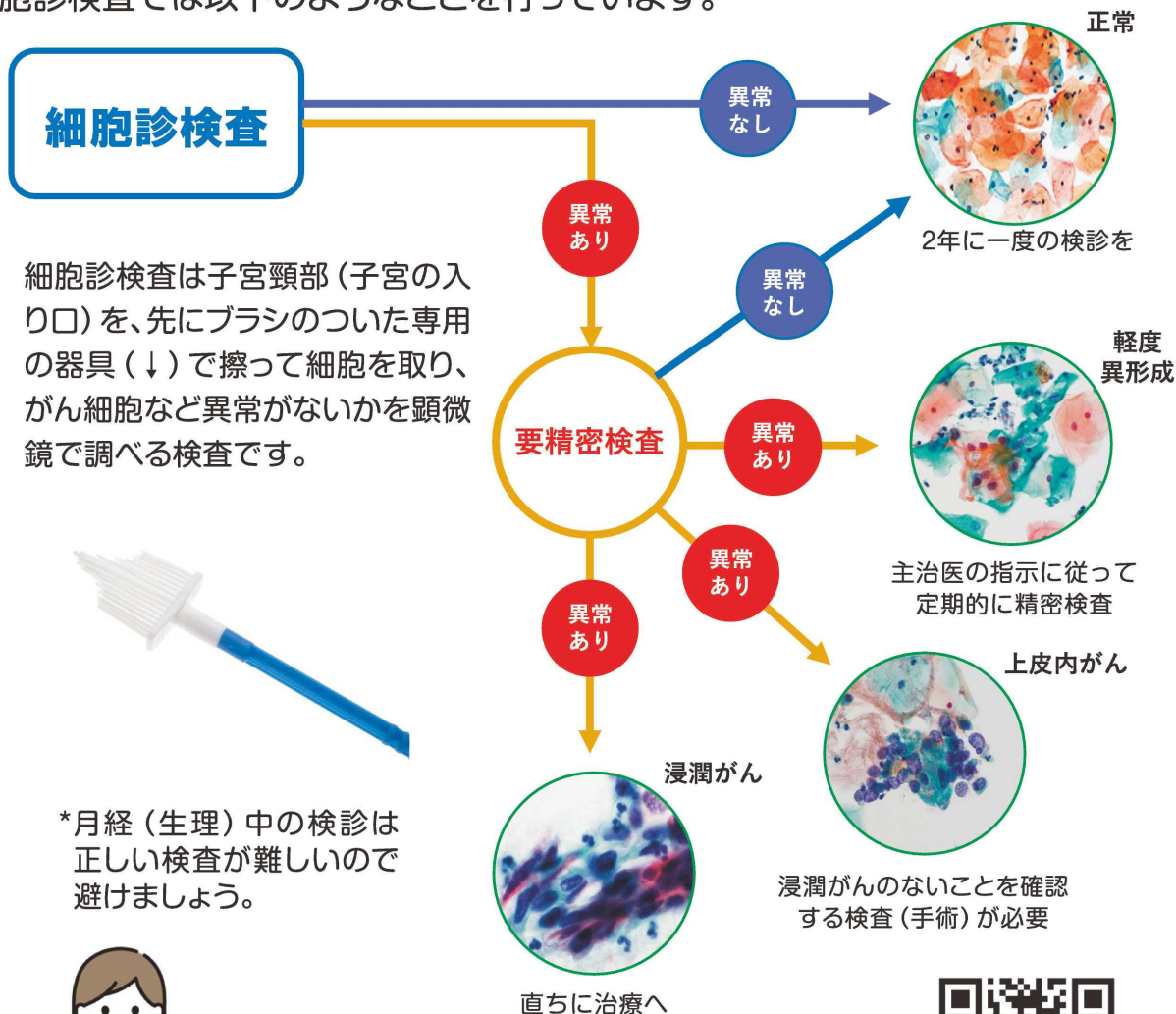
(出典:公益財団法人東京都予防協会)



(出典:厚生労働省のリーフレット)

# 子宮頸がん検診って何をするの？

検診方法には問診、視診、細胞診検査、HPV検査単独法があります。そのうち、細胞診検査では以下のようなことを行っています。



子宮頸がん検診について  
詳しく知りたい方はこちらをご覧ください→



リンク先：日本医師会ホームページ

## 予防のために私たちにできること

子宮頸がん検診での早期発見とともに、HPVワクチンによって数種類のHPV感染を予防でき、子宮頸がんの多くを予防する効果があります。HPVは性交渉で感染するとされており、ワクチンは初めての性交渉前に接種することが望ましいと考えられています。日本では小学校6年～高校1年相当の女性が定期予防接種の対象です。しかしワクチンで完全に感染を防げるわけではなく、また、一度感染したHPVを排除することはできません。20歳になり、性交渉が一度でもあれば定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。